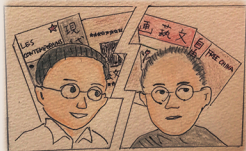


上海モダニズム作家の葛藤

講師 柏木 万里 (かしわぎ・まり)

1930年代の上海に生きた二人の男、
しちつそん とこう
施蛰存、杜衡。



二人は中学からの同級生。ともに文学を好み、仲間たちと文芸誌をいくつも立ち上げました。しかし当時の上海は、戦争真っただ中。

1932年1月には、第一次上海事変が発生し、戦場と化した上海で、ほとんどの雑誌は停刊となります。出版社の現代書局は、再建をかけ、施蛰存に大型商業雑誌『現代』の編集を依頼します。要求されたのは政治的「中間路線」。施蛰存は、杜衡に編集の協力を要請します。しかし、政治と文学の間、「中間路線」は容易ではありません。

前半は、施蛰存、杜衡らが評される「上海モダニズム文学」を、他の都市の作品と比較しつつ解説します。後半は、杜衡が『現代』誌上で起こした「第三種人論争」と、彼の創作を追い、杜衡が文壇に与えたものは何か、考えます。

と き： 9月30日、10月14日 共に、日曜日 昼2時～4時

ところ： 公民館 3階講座室 定員： 25名 (申込先着順)

申 込： 9月7日 (金) 朝9時～ 公民館 ☎ 572-5141

主 催： 国立市公民館 & 一橋大学言語社会研究科

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！修行中の院生にアドバイスするもよし！院生が講師になって専門分野をご紹介します。

一橋大学
院生講座